

五木の子守歌（瓜生田山桜）

解説 熊本県五木村の子守奉公の娘達が歌った子守歌。

語釈 ※切々Ⅱ思いが胸に迫るさま。

※哀調Ⅱもの哀しくさびしい感じの調べ。

※可憐Ⅱいじらしく、可愛いこと。

※胸襟Ⅱ心の中。胸中。※他郷Ⅱ故郷以外の土地。

※岑Ⅱ山のいただき。

切々たる 哀調 我心に迫る

可憐の 少女 胸襟を 唄う

通釈 可憐な奉公娘の胸のうちを唄う歌が私の心に迫ってくる。故郷から異郷に出て初めて知るお母さんの愛。毎日、故郷の五木村の山のいただきに思いは飛ぶ。

他郷 初めて 識る 母の 愛

歌一 おどま盆ぎり盆ぎり

盆から先やおらんど

盆が早よ来りや早よもどる

日夜 思いは 飛ぶ 五木の 岑

歌二 おどま勸進勸進

あん人達やよか衆

よかしゃよか帯よか着物